

アビリンピック高知大会2018

ワープロ Aコース

(1) 競技時間

制限時間は120分とします。

(2) 使用機器について

会場設置の機器を使用します。

(3) その他

- ▶ 競技会場の指定された席で競技して下さい。
- ▶ 配布する課題は、係りの者の合図があるまで開かないで下さい。
- ▶ 競技中に機器が故障した場合は、係りの者に連絡の上、指示に従って下さい。
- ▶ 印刷は不要です。
- ▶ ファイルはデスクトップに保存して下さい。
- ▶ 指示のない項目については、参加者の判断で行って下さい。
(審査得点に影響はありません)
- ▶ 回答完了後、Wordは終了せずに入力状態のままにしておいて下さい。

【課題】以下の指示に従ってワード文章を完成させなさい。

※文章中の英数字は指定がない限り半角とする。

- (1) MS-Word を起動しなさい。
- (2) ページ設定をA 4 縦、余白「上 30mm」「下 25mm」「左 18mm」「右 18mm」に設定し、横書き、文字数 4 8、行数 4 5 に設定しなさい。フォント設定は既定のままとします。
- (3) ヘッダーサイズを「上から 17mm」に設定し、組み込みを「空白(3 か所)」としなさい。
- (4) 左に「アビリンピック高知大会」と入力し、右側に競技者名を入力しなさい。
- (5) デスクトップに「競技者名.docx」という名前で保存しなさい。
※ 競技者氏名が「高知 太郎」なら「高知太郎.docx」というファイル名にすること。
※ 以降、こまめに上書き保存しなさい。
- (6) フッターサイズを「下から 12mm」に設定し、ページ中央に「-1-」形式で表示させなさい。
- (7) 1 行目に「ジョン万次郎の生涯」と入力し、文字に対しワードアートのスタイル「塗りつぶし (グラデーション) - 黒、輪郭 - 白、影 (外側)」にしなさい。



- (8) 入力した文字に対し、フォントをHG P創英プレゼンスEB、フォントサイズを 48 p t、文字の輪郭の太さを 1.5 p t にしなさい。
- (9) ワードアートのスタイルを変形「凹レンズ」にし、位置を行内にしなさい。



- (10) ワードアートの文字が中央に配置されるように設定しなさい。
- (11) 図形「円/楕円」を挿入し、文字列の折り返しを「背景」にして作成したワードアートの下に配置にしなさい。
- (12) 挿入した図形は、スタイルを「パステル - 赤、アクセント 2」、線なしにしなさい。



(13) 1行空け、次の行に「生き立ち、漂流と渡米」と入力しなさい。

フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは14ptにし、囲み線を入れなさい。

(14) 4行目以降に次の文章を入力しなさい。

万次郎（旧字体：萬次郎）は、文政10年1月1日（1827年1月27日）、土佐国幡多郡中ノ浜村。現在の高知県土佐清水市中浜で、半農半漁で暮らす貧しい漁師の家の次男として生まれた。

万次郎が9歳のとき父が亡くなり、また母と兄が病弱であったため、幼い頃から働いて家族を養った。寺子屋に通う余裕がなかったため、読み書きもほとんど出来なかった。

天保12年1月5日（1841年1月27日）早朝の宇佐浦（現・土佐市宇佐町）、14歳になっていた万次郎は、足摺岬沖での鰺鮪漁に出航する漁船に炊事と雑事を行う係として仲間4名と共に乗り込んだ。ところが、万次郎達は足摺岬の南東15キロメートルほどの沖合で操業中、突然の強風に船ごと吹き流され、航行不能となって遭難してしまう。5日半を漂流した後、伊豆諸島にある無人島「鳥島」に漂着し、この島でわずかな溜水と海藻や海鳥を口にしながら143日間を生き延びた。

同年5月9日（1841年6月27日）、万次郎達は、アメリカ合衆国の捕鯨船ジョン・ハウランド号が島に立ち寄った際、乗組員によって発見され、救助された。しかし、その頃の日本は鎖国していたため、この時点で故郷へ生還する術は無く、帰国の途に就いた捕鯨船に同乗したままアメリカへ向かわざるを得なかった。翌年、ハワイのホノルルに寄港した折、救助された5名のうち万次郎を除く4名はこの地で船を降り、ひとり万次郎は捕鯨船員となって船に乗り続け、アメリカ本土を目指すことになった。船長のホイットフィールドに頭の良さを気に入られたこともあるが、何より本人が希望した処遇であった。

航海中の万次郎は、生まれて初めて世界地図を目にし、世界における日本の小ささに驚いている。

また、航海中、アメリカ人の乗組員からは、船名にちなんで「ジョン・マン(John Mung)」の愛称で呼ばれた。同年、ジョン・ハウランド号は捕鯨航海を終え、ホイットフィールド船長の故郷であるマサチューセッツ州ニューベッドフォードのフェアヘブンに帰港した。アメリカ本土に渡った万次郎は、船長の養子となって一緒に暮らすことになる。1843年にはオックスフォード学校、1844年にはバーレット・アカデミーで英語・数学・測量・航海術・造船技術などを学ぶ。彼は寝る間を惜しんで熱心に勉強し、首席となった。民主主義や男女平等など、日本人にとって新鮮な概念に触れる一方で、人種差別も経験した。

(15) 上記入力した文章の次の行に「改ページ」を挿入しなさい。

- (16) 次のページに図形 gazo1.jpg を挿入しなさい。
- (17) テキストボックスを上記挿入した図形の下に挿入しなさい。
 テキストボックスは横書きで横のサイズは上記図形に合わせ、フォントはMS Pゴシック体、サイズは 10.5 p t とする。
- (18) テキストボックス内には以下の文章を入力しなさい。

萬次郎と仲間達の群像ノジョン万次郎資料館がある
 施設「海の駅あしずり」(土佐清水市養老 303)の駐車
 場に建立されている記念碑

- (19) (12)で挿入した図形と上記テキストボックスを共に折り返しを「前面」にし、図形の下にテキストボックスを配置し、グループ化しなさい。
- (20) グループ化した図の文字の折り返しを「外周」にし、文章（万次郎が 9 歳のとき～）の右端あたりに配置しなさい。
- (21) 2 ページ 1 行目に「捕鯨生活と帰国」と入力しなさい。
 フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは 14 p t にし、囲み線を入れなさい。
- (22) 2 行目以降に次の文章を入力しなさい。

学校を卒業後は捕鯨船に乗る道を選び、数年間は近代捕鯨の捕鯨船員として生活していた。

1850 年 5 月、日本に帰る事を決意、帰国の資金を得るため、ゴールドラッシュに沸くサンフランシスコへ渡り、サクラメント川を蒸気船で遡上し、鉄道で山へ向かった。数ヶ月間、金鉱にて金を採掘する職に就き、そこで得た \$600 の資金を持ってホノルルに渡り、日本へ向け出航した。

1851 年 2 月 2 日、海外から鎖国の日本へ帰国した万次郎達は、薩摩藩の取調べを受ける。薩摩藩では中浜一行を厚遇し、開明家で西洋文物に興味のあった藩主・島津斉彬は自ら万次郎に海外の情勢や文化等について質問した。斉彬の命により、藩士や船大工らに洋式の造船術や航海術について教示、その後、薩摩藩はその情報を元に和洋折衷船の越通船を建造した。斉彬は万次郎の英語・造船知識に注目し、後に薩摩藩の洋学校（開成所）の英語講師として招いている。

薩摩藩での取調べの後、万次郎らは長崎に送られ、江戸幕府の長崎奉行所等で長期間尋問を受ける。長崎奉行所で踏み絵によりキリスト教徒でないことを証明させられ、外国から持ち帰った文物を没収された後、土佐藩から迎えに来た役人に引き取られ、土佐に向った。高知城下において吉田東洋らにより藩の取り調べを受け約 2 ヶ月後、帰郷が許され、帰国から約 1 年半後の嘉永 5 年（1852 年）、漂流から 11 年目にして故郷に帰る事が出来た。

- (23) 文章(1850年5月、～)の左端あたりに画像 douzou.jpg を挿入しなさい。
文字列の折り返しは「外周」とする。
- (24) 挿入した画像サイズを「縦横比を固定」して60%にしなさい。
- (25) 1行空け、次の行に「帰国後の活躍」と入力しなさい。
フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは14ptにし、囲み線を入れなさい。
- (26) 次の行に下の文章を入力しなさい。

帰郷後すぐに、万次郎は土佐藩の士分に取り立てられ、藩校「教授館」の教授に任命された。この際、後藤象二郎、岩崎弥太郎などを教えている。

1853年、黒船来航への対応を迫られた幕府はアメリカの知識を必要としていたことから、万次郎は幕府に招聘され江戸へ行き、直参の旗本の身分を与えられた。その際、生まれ故郷の地名を取って「中濱」の苗字が授けられた。万次郎は軍艦教授所教授に任命され、造船の指揮、測量術、航海術の指導に当たり、同時に、英会話書の執筆、翻訳、講演、通訳、英語の教授、船の買付など精力的に働く。

その後、結婚。藩校「教授館」の教授に任命されるが、役職を離れた。理由の1つには、中浜がアメリカ人と交友することをいぶかしがる者が多かったことも挙げられる。また当時、英語をまともに話せるのは中浜万次郎1人だったため、マシュー・ペリーとの交渉の通訳に適任とされたが、通訳の立場を失うことを恐れた老中がスパイ疑惑を持ち出したため、結局ペリーの通訳の役目から下ろされてしまったが、実際には日米和親条約の平和的締結に向け、陰ながら助言や進言し尽力した。

1860年、日米修好通商条約の批准書を交換するための遣米使節団の1人として、咸臨丸に乗りアメリカに渡る。船長の勝海舟が船酔いがひどくまともな指揮を執れなかったため、万次郎は代わって船内の秩序保持に努めた。サンフランシスコに到着後、使節の通訳として活躍。帰国時に同行の福澤諭吉と共にウェブスターの英語辞書を購入し持ち帰る。

慶応2年(1866年)、土佐藩の開成館設立にあたり、教授となって英語、航海術、測量術などを教える。翌年、薩摩藩の招きを受け鹿児島に赴き、航海術や英語を教授したが、同年12月、武力倒幕の機運が高まる中、江戸に戻った。

- (27) 入力した文字列に段組み2段、境界線ありの設定にしなさい。

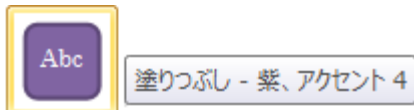
- (28) 改ページを挿入し、3 ページ 1 行目より以下の文章を入力しなさい。

明治維新後の明治 2 年（1869 年）、明治政府により開成学校（現・東京大学）の英語教授に任命される。普仏戦争視察団として欧州へ派遣されるが、発病のため戦場には赴けずロンドンで待機した。帰国の途上、アメリカで恩人のホイットフィールドと再会。更に帰国途上にハワイにも立ち寄り、旧知の人々と再会を果たした。帰国後に軽い脳溢血を起こし、数ヵ月後には日常生活に不自由しないほどに回復するが、以後は静かに暮らす。

時の政治家たちとも親交を深め、政治家になるよう誘われたが、教育者としての道を選んだ。

明治 31 年（1898 年）、72 歳で死去。

- (29) 上記入力した文章（1 文字目）にドロップキャップを設定しなさい。
- (30) 1 行空け、次の行に図形「角丸四角形」を挿入しなさい。
文字の折り返しは行内とする。
- (31) 挿入した図形のスタイルを「塗りつぶし-紫、アクセント 4」に設定しなさい。



- (32) 挿入した図形にテキストの追加をし、「万次郎が日本人初とされるもの」と入力しなさい。
※ フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは 14 p t とする。
※ 入力した文字が 1 行で表示され、中央にくる様に図形を調整しなさい。

- (33) 次の行に以下の文章を入力しなさい。

『ABC の歌』を日本に初めて紹介した。
日本で初めてネクタイをしたとも言われる。
初めて鉄道・蒸気船に乗った日本人でもある。
日本人で初めて近代式捕鯨に携わった。
日本人で初めてアメリカのゴールドラッシュといわれる金の採掘に携わった。

- (34) 上記の文章を箇条書きとし、行頭文字を「◆」に設定しなさい。

- (35) 画像 manjiro.jpg を挿入しなさい。
図のスタイルは「楕円、ぼかし」とする。



※図形のレイアウトの倍率が 100%以外ならば、100%に再設定すること。

- (36) 挿入した画像 manjiro.jpg を文字の折り返しを「四角」にし、文章(時の政治家たち~)の右端あたりに配置しなさい。
- (37) 1行空け、次の行に3行の表を挿入しなさい。
表のサイズは問わないが、ページ内に収まるようにサイズを調整すること。
- (38) 作成した表の1行目に「ジョン万次郎資料館」と入力しなさい。
フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは16ptとする。
- (39) 表1行目のセルの色を「オリーブ、アクセント3、白+基本色40%」で塗りつぶしなさい。
- (40) 表2行目に対し、セルの分割をしなさい。
- (41) 1行目、2行目のセルに対しテキストの配置は、1行目は中央揃え、2行目は両端揃え(中央)にしなさい。
- (42) 2行目1列目に「〒787-0337 高知県土佐清水市養老303」と入力しなさい。
フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは12ptとする。
- (43) 2行目2列目に「電話：0880-82-3155」「FAX：0880-82-3156」と入力しなさい。
電話番号とFAX番号には改行を入れること。
フォントはHG丸ゴシックM-PRO体、サイズは11ptとする。
- (44) 表3行目に、画像 map.jpg を挿入しなさい。
- (45) 挿入した画像サイズの縦横比を固定し、82%に縮小しなさい。

以上で終了。

上書き保存し、ワードは入力した状態のままにしておきなさい。

仕上がりイメージ

アビリンピック高知大会

競技者名

ジョン万次郎の生涯

生い立ち、漂流と渡米

万次郎（旧字体：萬次郎）は、文政10年1月1日（1827年1月27日）、土佐国幡多郡中ノ浜村。現在の高知県土佐清水市中浜で半農半漁で暮らす貧しい漁師の家の次男として生まれた。

万次郎が9歳のとき父が亡くなり、また母と兄が病弱であったため、幼い頃から働いて家族を養った。寺子屋に通う余裕がなかったため、読み書きもほとんど出来なかった。

天保12年1月5日（1841年1月27日）早朝の宇佐浦（現・土佐市宇佐町）、14歳になっていた万次郎は、足摺岬沖での鰹鱈漁に出航する漁船に炊事と雑事を行う係として仲間4名と共に乗り込んだ。ところが、万次郎達は足摺岬の南東15キロメートルほどの沖合で操業中、突然の強風に船ごと吹き流され、航行不能となって遭難してしまう。5日半を漂流した後、伊豆諸島にある無人島「鳥島」に漂着し、この島でわずかな溜水と海藻や海鳥を口にしながらかつて143日間を生き延びた。

同年5月9日（1841年6月27日）、万次郎達は、アメリカ合衆国の捕鯨船ジョン・ハウランド号が島に立ち寄った際、乗組員によって発見され、救助された。しかし、その頃の日本は鎖国していたため、この時点で故郷へ生還する術は無く、帰国の途に就いた捕鯨船に同乗したままアメリカへ向かわざるを得なかった。翌年、ハワイのホノルルに寄港した折、救助された5名のうち万次郎を除く4名はこの地で船を降り、ひとり万次郎は捕鯨船員となって船に乗り続け、アメリカ本土を目指すことになった。船長のホイットフィールドに頭の良さを気に入られたこともあるが、何より本人が希望した処遇であった。



萬次郎と仲間達の群像／ジョン万次郎資料館がある施設「海の駅あしずり」（土佐清水市養老303）の駐車場に建立されている記念碑

航海中の万次郎は、生まれて初めて世界地図を目にし、世界における日本の小ささに驚いている。また、航海中、アメリカ人の乗組員からは、船名にちなんで「ジョン・マン（John Mung）」の愛称で呼ばれた。同年、ジョン・ハウランド号は捕鯨航海を終え、ホイットフィールド船長の故郷であるマサチューセッツ州ニューベッドフォードのフェアヘブンに帰港した。アメリカ本土に渡った万次郎は、船長の養子となって一緒に暮らすことになる。1843年にはオックスフォード学校、1844年にはパーレット・アカデミーで英語・数学・測量・航海術・造船技術などを学ぶ。彼は寝る間を惜しんで熱心に勉強し、首席となった。民主主義や男女平等など、日本人にとって新鮮な概念に触れる一方で、人種差別も経験した。

仕上がりイメージ

アビリンピック高知大会

競技者名

捕鯨生活と帰国

学校を卒業後は捕鯨船に乗る道を選び、数年間は近代捕鯨の捕鯨船員として生活していた。



1850年5月、日本に帰る事を決意、帰国の資金を得るため、ゴールドラッシュに沸くサンフランシスコへ渡り、サクラメント川を蒸気船で遡上し、鉄道で山へ向かった。数ヶ月間、金鉱にて金を採掘する職に就き、そこで得た\$600の資金を持ってホノルルに渡り、日本へ向け出航した。

1851年2月2日、海外から鎖国の日本へ帰国した万次郎達は、薩摩藩の取調べを受ける。薩摩藩では中浜一行を厚遇し、開明家で西洋文物に興味のあった藩主・島津斉彬は自ら万次郎に海外の情勢や文化等について質問した。斉彬の命により、藩士や船大工らに洋式の造船術や

航海術について教示、その後、薩摩藩はその情報を元に和洋折衷船の越通船を建造した。斉彬は万次郎の英語・造船知識に注目し、後に薩摩藩の洋学校（開成所）の英語講師として招いている。

薩摩藩での取調べの後、万次郎らは長崎に送られ、江戸幕府の長崎奉行所等で長期間尋問を受ける。長崎奉行所で踏み絵によりキリスト教徒でないことを証明させられ、外国から持ち帰った文物を没収された後、土佐藩から迎えに来た役人に引き取られ、土佐に向った。高知城下において吉田東洋らにより藩の取り調べを受け約2ヶ月後、帰郷が許され、帰国から約1年半後の嘉永5年（1852年）、漂流から11年目にして故郷に帰る事が出来た。

帰国後の活躍

帰郷後すぐに、万次郎は土佐藩の士分に取り立てられ、藩校「教授館」の教授に任命された。この際、後藤象二郎、岩崎弥太郎などを教えている。

1853年、黒船来航への対応を迫られた幕府はアメリカの知識を必要としていたことから、万次郎は幕府に召喚され江戸へ行き、直参の旗本の身分を与えられた。その際、生まれ故郷の地名を取って「中濱」の苗字が授けられた。万次郎は軍艦教授所教授に任命され、造船の指揮、測量術、航海術の指導に当たり、同時に、英会話書の執筆、翻訳、講演、通訳、英語の教授、船の買付など精力的に働く。

その後、結婚。藩校「教授館」の教授に任命されるが、役職を離れた。理由の1つには、中浜がアメリカ人と交友することをいぶかしがる者が多かったことも挙げられる。また当時、英語をまともに話せるのは中浜万次郎1人だったため、マシュー・ペリーとの交渉の通訳に適任とされたが、

通訳の立場を失うことを恐れた老中がスパイ疑惑を持ち出したため、結局ペリーの通訳の役目から下ろされてしまったが、実際には日米親善条約の平和的締結に向け、陰ながら助言や進言し尽力した。

1860年、日米修好通商条約の批准書を交換するための遣米使節団の1人として、威臨丸に乗りアメリカに渡る。船長の勝海舟が船酔いがひどくまともな指揮を執れなかったため、万次郎は代わって船内の秩序保持に努めた。サンフランシスコに到着後、使節の通訳として活躍。帰国時に同行の福澤諭吉と共にウェブスターの英語辞書を購入し持ち帰る。

慶応2年（1866年）、土佐藩の開成館設立にあたり、教授となって英語、航海術、測量術などを教える。翌年、薩摩藩の招きを受け鹿児島に赴き、航海術や英語を教授したが、同年12月、武力倒幕の機運が高まる中、江戸に戻った。

仕上がりイメージ

アビリンピック高知大会

競技者名

明 治維新後の明治2年（1869年）、明治政府により開成学校（現・東京大学）の英語教授に任命される。普仏戦争視察団として欧州へ派遣されるが、発病のため戦場には赴けずロンドンで待機した。帰国の途上、アメリカで恩人のホイットフィールドと再会。更に帰国途上にハワイにも立ち寄り、旧知の人々と再会を果たした。帰国後に軽い脳溢血を起こし、数ヵ月後には日常生活に不自由しないほどに回復するが、以後は静かに暮らす。時の政治家たちとも親交を深め、政治家になるよう誘われたが、教育者としての道を選んだ。

明治31年（1898年）、72歳で死去。

万次郎が日本人初とされるもの

- ◆ 『ABCの歌』を日本に初めて紹介した。
- ◆ 日本で初めてネクタイをしたとも言われる。
- ◆ 初めて鉄道・蒸気船に乗った日本人でもある。
- ◆ 日本人で初めて近代式捕鯨に携わった。
- ◆ 日本人で初めてアメリカのゴールドラッシュといわれる金の採掘に携わった。



ジョン万次郎資料館

〒787-0337 高知県土佐清水市養老 303

電話：0880-82-3155

FAX：0880-82-3156

